

平成29年度 南アルプス市立若草南小学校学校関係者評価書

平成30年1月23日（火）
学校関係者評価委員会作成

第4回学校関係者評価委員会

実施日：平成30年1月23日（火）午後1時30分～

場 所：若草南小学校校長室

参加者：学校関係者評価委員・教職員

五味五月男（藤田区自治会長、学校評議員）
弥富 賢士（浅原区自治会長、学校評議員）
深澤 美香（主任児童委員、学校評議員）
佐藤 佳樹（PTA 会長、学校評議員）
中村 貴子（PTA 副会長、学校評議員）
柴田 肇（市管財契約課課長、学校評議員）
市川 利仁（校長）
加賀美 敏（教頭）
石川 和樹（教務主任）

1 学校側から提案の内容

- ①学校関係者評価の趣旨
- ②評価の全体的な傾向について
- ③児童アンケートの内容と結果について（前期と後期を比較して）
- ④教職員自己評価シートの内容と結果について（前期と後期を比較して）
- ⑤保護者アンケートの内容と結果について（前年度と今年度を比較して）
- ⑥まとめ…今後の課題（重点目標）について

2 協議された主な内容

- ①学校自己評価についての全体評価について
- ②項目ごとの評価・達成状況・改善策について
- ③重点課題の取組の成果と今後の改善策について

《学校関係者評価書》

I 全体評価

教職員評価・児童アンケート・保護者アンケートの結果を見るとほとんどの項目で肯定的評価が80%以上で、ここ数年あまり変わっていない。この結果からも学校経営が学校長の指導の下しっかり行われ、保護者や児童も学校教育に概ね満足していると考えられる。

II 学校関係者評価委員会で出された主な意見

○子どもの自主的な発言について

- ・授業参観やPTAの行事では、子どもたちが感想を自主的に言っているのを見ているので、子どもの『自ら進んで自分の考え発言する』の項目が、前期よりも下がったのはなぜかと思う。あまりマイナスにとらえるのではなく、プラスに考えて取り組んでほしい。

○ケータイ・スマホの問題について

- ・小学生が店の中でインスタグラムに上げるためにスマホで写真を撮っているのを見た。その写真には他の人たちの顔も写っていたので、スマホのルール作りを家庭でもしっかりさせることが大切だと思った。
- ・小さな子どもがぐずるとスマホを見せて、あやしている親を見た。子どもの人と関わるコミュニケーション能力がどうなるか心配である。また、外見上おとなしい子でも、ネットでは別の顔を持ち、広い範囲で交流を持っている子がいる。保護者や大人が知らない所でいろいろな人や世界とつながっていることが心配になる。
- ・繰り返しケータイ・スマホに関する学習をしたり指導したりし続けることが大事である。
- ・子ども任せにせず、保護者が子どもの使用についてしっかりとチェックをするべきである。これからもPTAの会合等でケータイ・スマホの学習会をして保護者にケータイ・スマホの危険性について伝えていくことが大切である。

○安全管理について

- ・事故が減ると安全意識が落ちる。
 - ・学校での事故事例を整理して、同じことが何回も起こっているなら対策をするとよい。学校間で情報交換して事故事例を共有し学ぶことが予防につながる。KYTの活用をするとよい。
- 危険予知訓練（きけんよちくんれん）は、工事や製造などの作業に従事する作業者が、事故や災害を未然に防ぐことを目的に、その作業に潜む危険を予想し、指摘しあう訓練である。ローマ字による表記 Kiken Yochi Training の頭文字をとってKYT（ケーワイティー）、あるいはKY訓練／KY活動（KYK）とも呼ぶ。
- ・学校から出る反故紙は、リサイクル用紙・シュレッダー用紙・溶解用紙の3種に分けて入れる箱を用意し、個人情報の管理をしっかりし、時々チェックをするとよい。分別のルールを明確化し、徹底することが大事である。

○地域連携について

- ・各自治会区でも様々な取組を行い、学校と地域と住民の連携をアピールして意識を高めている。

○教職員の多忙化について

- ・職員会議などの資料を早めに出すようにした事は良い。
- ・仕事は優先順位を決めてやるべきである。
- ・教育は時間では測れないからむずかしい。
- ・管理職は教職員を良く見て、スケジュール管理や指導をするべきである。
- ・教師に無理がかかると、子どもに無理がかかってしまう。また、教師が結論や結果を急いでしまうと子どもも感じてしまい、落ち着かなくなったり、形だけの取組になったりするのはないか。そうすると教師は、苦情が来なければ良いという考えや取組になってしまう恐れがある。
- ・教師に心のゆとりがないと子どもに余裕を持って接することができないので、何かといろいろな事が増えて忙しいと思うが、ゆとりを持ってほしい。

○卒業式の袴について

- ・親は良いかもしれないが、子どもに与える影響が心配である。
- ・それぞれの家庭の事情があり、着せたいけど着せることができない家庭もある。形だけのために無理をしているのではないか？そういった状況を保護者に考えてほしい。
- ・保護者が一生懸命になりすぎなのではないか。

Ⅲ今後の改善策・重点課題について

①校内研究を中心にした研修の充実と授業改善

- ・一人ひとりの児童を大切にした学級・学年経営（Q-U、学級力アンケートの活用）
- ・アクティブ・ラーニングを活用した授業づくり
- ・学習スタンダードに基づいた授業実践

②家庭や地域との連携・協力の深化

- ・安全教育の更なる充実と安全管理・指導（見守りたすきの普及・拡大）
- ・ケータイ・スマホのルール作りのための学習会や啓発活動の推進
- ・P T Aによる自主的な登校班の編成と朝の登校指導の継続
- ・地域と協力しての防災のしくみづくり（避難所運営の分担・マニュアル作り）
- ・家庭学習の更なる定着と推進
- ・P T Aボランティア部会の拡大や人材発掘（学校サポーターを増やす）

③教職員の多忙化解消

- ・学校行事や職員会議の内容の精選。（決められた時間の中で、PDCA サイクルの活用）
- ・カリキュラム・マネジメントに基づく教育課程の見直しによる時間の有効活用
- ・教職員の業務の見直しと精選（きずなの日の定時退勤日の試行）